

平成 14 年 8 月 27 日

こんな遊び場あったらいいな…プレーパーク・ワークショップ 子ども会議メンバーが世田谷プレーパークを体験見学

豊島区は、子どもたちが自由に遊びを創造することのできる「プレーパーク（冒険遊び場）」を池袋本町地区で 15 年度からスタート（暫定開設）する予定である。このプレーパーク事業は、区にとって初の取り組みとなるもので、そのプランニングにあたり、**子どもを含めた区民参加のワークショップ**を立ち上げた。

ワークショップは、**大人会議 30 名、子ども会議 19 名**のメンバーから構成され、プレーパークの基本的な計画から開設後の運営方法・利用規則を検討するほか、子どもの視点からのプレーパークイメージ案づくりを行っていく。昨日夜に第 1 回目の大人会議が開催されたのに引き続き、本日 27 日（火）には、20 年以上の事業実績を持つ世田谷区の区立世田谷プレーパークにメンバー達が見学を訪れた。プランニングに先立ち、実際のプレーパークをまずは見て、遊んで、体験してみようという試みである。

プレーパークは、従来の固定的な遊具等が設置された公園とは異なり、**子どもたちがのびのびと遊べる自然な原っぱ的な空間**で、運営も区民による自主管理が基本。木や土などの自然と親しみながら群れ遊び、自らの責任のもとで、**与えられた遊びではなく自由な遊びを創造していくことは子ども達の成長の大きなエネルギーとなる**。急速に都市化が進展した豊島区には、子どもたちが主体的に遊べるそうした空間が少なくなっており、21 世紀を担う子どもたちの健全育成を図るため、プレーパークの設置は重要な課題となっている。区は今後、他地区でのプレーパーク事業の展開も視野に入れており、その意味で第一弾となる池袋本町地区は、今後の事業展開、住民による自主管理運営の試金石となる。そのため、どんな遊び場がいいか、どういう風に運営したらいいか、これから区民を主体としたワークショップでその青写真を描いていくこととなる。

本日の世田谷プレーパーク体験見学は、20 日に行われた第 1 回目続く 2 回目の見学会で、プレーパークのイメージづくり、どのようなプランを描いていくかのヒントを発見することが狙い。小学 4 年生から 6 年生までの 11 名の子ども会議メンバーと 4 名の大人会議メンバーが参加した。大人会議メンバーは、現地で子ども達の見守り役であるプレーリーダーから、プレーパーク事業の運営方法についてレクチャーを受け、その間、子どもたちは園内を自由に遊びまわった。スケボーランプや縄ブランコ、ウォータースライダーや手づくりスロープ、などをよじ登ったり、かけ回ったりと、どの子もすぐに遊びに夢中になっていた。また、昼食は、自分たちでカマドに火をおこし、そうめんを茹で、竹ざおを使っての「そうめん流し」。みんな遊びまわった後だけに、流れてくるそうめんを次々すくってはツルツル口に運び、山盛りのそうめんをあっという間にたいらげた。

参加した子どもたちは、「**水遊びが最高に楽しい！**」「**スケボーランプに私たちの基地を作ったよ**」「**そうめん、とってもおいしかった**」と生き生きした笑顔で半日の体験見学を堪能した様子だった。また、大人会議のメンバーたちも「**子どもたちが頭を使って遊んでいる姿がいい**」「**遊びがどんどん広がっていくのが魅力的**」と子ども達の様子に目を細めながらも、「ここ（世田谷）はここの人たちが作っているところ。コピーや模倣でなく、私たちは私たち独自のものを手づくりしていきたい」と語っていた。また、同メンバーで地元の町会長を務める田中幸一郎さんは、「プレーパークは型には嵌らないもの。上下水道等の最低限の設備だけで早くオープンさせ、運営していく中でいろいろな工夫をしていく…進化させていけたらいいですね」と語っていた。

詳細：青少年課